

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上落合小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	学校全体で見ると市の平均回答率を上回っている教科、領域がほとんどであるが、算数、理科においては正答率が半数を超えない児童が10%以上いる。そのため、知識・技能のさらなる定着を図る。 ・毎時間の授業の中で大切なこと(まとめ)について、学習した言葉を用いて自分なりにまとめを記述することで、知識を確実に身に付けられるようにする。【毎時間】 ・スタサプやドリルパークや復習用プリント等を活用し、適用問題に繰り返し取り組む機会を増やす。【単元に1度以上、学期にまとめプリント1枚以上】
思考・判断・表現	学校全体で見ると市の平均回答率を上回っている教科、領域がほとんどであるが、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」についての平均正答率をさらに向上させていきたい。問題を読み取る力、読解力を高め、出題意図を正しく理解し、問題に正対した考えを進めることができる力を高める。 ・読書を推進する。(学校図書館での貸出冊数の把握を確実にする。【毎年】) ・物語や説明文の大事なところを落とさず読み取り、短い文章でまとめて記述する時間を設定する。【単元に1度以上】 ・事象やデータ結果から分析したり、考察したりしたことを記述する時間を設定する。【国語、社会、理科において単元に1度以上】 ・過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組む時間を確保する等、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。【単元に1度以上実施】

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>令和5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、市平均を大きく上回っている。しかしながら、問題文をよく読まずに問題に取り組んだためであろう誤答がみられる。<指導上の課題>児童自身による、解答の見直しの仕方の指導が不十分である。	検算や見直しのポイントについての指導を徹底するとともに、必ず答えを見直すよう教師の声かけも行う。今後は、教科書の適用問題を解くことで基礎・基本の定着を図るとともに、スタサプやドリルパーク等のコンテンツを用いて、習熟度に合わせた問題に挑戦する機会を増やすことで、学習意欲の向上を図りたい。【単元に1度以上実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>令和5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、市全体の平均を大きく上回っている。しかしながら、題意を捉えられず解答できない(誤答)様子がみられる。<指導上の課題>授業において、児童が題意を捉えているかを確認する時間の確保が不十分である。	問題のどの部分が立式や解答に必要なかを理解して読むことができるようになる必要に線を引きたり、単位等に丸印をつけたりして視覚的に捉えやすくする。特に「もとのにする量」の考え方を系統立てて指導することで、倍や割合、単位量あたりの数についての考え方を確実に身に付けられるようにする。過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組む時間を確保する等、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。【単元に1度以上実施】

⑤ 授業改善策の達成状況	
知識・技能	B 検算や見直しのポイントについての指導を徹底するとともに、必ず答えを見直すよう教師の声かけを行うことができた。教科書の適用問題を解くことで基礎・基本の定着を図るとともに、スタサプやドリルパーク等のコンテンツを用いて、単元に1度以上習熟度に合わせた問題に挑戦する機会を増やすことで、学習意欲の向上を図ることができた。
思考・判断・表現	B 問題のどの部分が立式や解答に必要なかを理解して読むことができるようになる必要に線を引きたり、単位等に丸印をつけたりして視覚的に捉えやすくすることができた。「もとのにする量」の考え方を系統立てて指導することで、倍や割合、単位量あたりの数についての考え方を身に付けられるようにすることができた。R6年度さいたま市学習状況調査算数の「変化と関係」の領域において、すべての学年で市の平均正答率を3%以上上回ることができた。(3年の調査には「変化と関係」の領域に関する出題なし)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科・算数科ともに、知識・技能のどの領域においても市全体の平均を上回る結果となった。学校以外でも家庭学習等で繰り返し問題に取り組んでいる児童が多いことが結果につながっていると考えられる。しかし、算数科では、「変化と関係」が他の領域より正答率が低い。これは、第4学年から学習する「割合」や「比例関係」でつまづきを学習調整できていない児童が多いのではないかと考えらる。
思考・判断・表現	国語科・算数科ともに、思考・判断・表現のどの領域においても市全体の平均を上回る結果となった。学習に粘り強く取り組んでいることが結果につながったと考えられる。しかしながら、市全体の平均と同じように、知識・技能に比べると思考・判断・表現の平均が低いため、問題を解くだけでなく、なぜそうなるのかを思考させ、自分の考えをアウトプットする活動を授業で効果的に取り入れていく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの学年においても概ね市の平均回答率を上回り、昨年同様の結果であった。算数の図形の問題では、「辺」「頂点」などの言葉の意味を正しく理解できていないため、感覚的に回答を選んでいる様子が見られた。また、3桁×3桁の掛け算の計算方法が定着していない様子も見られるため、繰り返し適用問題に取り組ませたい。5・6年理科において「地球」を柱とする領域に関する問題の正答率が他の問題に比べ低かった。体験を伴った学びになっていないことが原因と考えられる。
思考・判断・表現	どの学年においても概ね市の平均回答率を上回り、昨年同様の結果であった。3・4年国語において「話すこと・聞くこと」の正答率が市平均を下回っていた。文章の中心となる部分に着目して考えをまとめることに課題がある。どの教科にも関連することとして、問題文や説明文を読み取ることに課題があり、読解力を高める必要がある。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B 検算や見直しのポイントを指導することができている。基礎・基本を習得させるため、練習問題等を繰り返し取り組むことでできている。今後は、習熟度別の問題に挑戦する時間をさらに確保する。	特に変更なし
思考・判断・表現	B 算数科において学年の発達に合わせた、題意を捉える手立てについて指導することができている。今後は、倍や割合、単位量の考え方が定着できるよう指導する。	特に変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)